

子などはどうですか。  
岩見 先生が学生を大切に  
するところだなと思いました。  
松本 教育系の色彩が強い  
大学ですから。

岩見 普通は、卒論の研究  
室に入って初めて先生とコン  
タクトできるわけなんです。  
ここは、初めからゼミ形式に  
よる授業があるので、このま  
ま四年間積み重ねれば、いい  
教育ができると思います。そ  
れに学生が非常にまじめです  
ね、授業の中で学生が発表す  
る機会があるんですが、当て  
られた学生が、連休はどこへ  
も行けなかった、本を読ん  
でも難しいし、ため息ばかりつ  
いていた。そのくらい緊張し



松本教授  
昭和七年生れ  
専門 日本史

五十嵐和枝さん  
出身 新潟県



て、まじめにやっていた。と  
てもいい事ですね。それを大  
切に持続させるのが我々の責  
任だと思います。  
松本 高校時代は、教科書  
で勉強するわけで、太字で書  
いてあるところを中心に覚え  
ればいいんです。ところが大  
学では、先生が言っているこ  
とを自分でかなり消化して発  
表しなければならぬ。これ  
が受け身姿勢の学生だとでき  
ないんです。自分の意見をま  
とめてしゃべる。これができ  
れば一人前なんです。学生に  
しゃべらせるといのは、か  
なりむりな注文であるとは分

っています。一年生の時から  
そういう訓練をしておけば、  
段々しゃべられるようになって  
きます。社会に出てそれが  
できると、できないのでは決  
定的な違いになってきます。  
言われたことしかやれない学  
生では、絶対に困るんです。

寺田 私の専門は、社会学  
です。こちらへ来る前に佐賀  
にいました。そこで、地元  
の人とか、行政の人と色々話  
をするのがありました。で  
もみなさんがとらえている社  
会学のイメージというのは、  
今度都留文科大にできた社  
会学科のように、地域社会の  
ことを色々と考えてくれると  
いうイメージなんです。です



寺田助教授  
昭和二十七年生れ  
専門 地域社会学

石原哲也さん  
出身 岡山県



からコミュニケーションづくりは  
どうしたらいいのか、高齢化  
社会に向けてどうすべきなの  
かと言った具体的な地域社会  
の問題をつきつけられるわけ  
なんです。そういう中で私な  
りに勉強してきたというのが  
こちらへ来る前の私の体験だ  
ったんです。こちらにお誘い  
があった時には、我が意を得  
たりと言ったところでした。  
松本 社会学科をつくろう  
とした時、どんな学科をつく  
るのか随分論議を重ねました。  
地域の人達からの要望に対し  
今の大学では対応することが  
できません。ですから、ひと

つ地域社会をフィールドにし  
て、それを型づくっている物  
の中で、みなさんが必要とし  
大事なものと思われるような  
ものをあちこちから引っぱっ  
てきた。例えば、都市工学の  
分野を文科系である本学科の  
中へ入れてみる。地方財政の  
重要性から、どなたかを招く。  
村おこし運動に関係する課目  
を作ってみる。社会福祉、高  
齢化社会の問題なら応えられ  
るような人を先生に招く。こ  
のように地域社会をベースに  
必要な分野を並べてみたのが  
都留の社会学科です。地域社  
会の要求とうまくかみ合い、  
行政の要望に応えられるよう  
な物を社会学科が持ちながら  
その中で学生が段々自分で考  
え、発言できるようになれば  
と思っています。  
松本 岩見先生、地域社会  
の要望などに応えることはど  
うですか。  
岩見 色々考えられると思  
います。私は区画整理事業に  
関係していましたが、地域  
に入ってみるととても大変な  
事はよく分かっています。そ  
ういう覚悟は持って来たつも  
りですから、色々やりたいと  
思います。例えば、演習的に  
やる都市計画の調査にしても  
地域の中へ学生と入ってい